秩父の段丘地形と暮らしを探るコース

三波川帯と新第三系の境界から、荒川を渡り蒔田の谷をたどり、地形と暮らしの関わりを探る。

内田家住宅（文化庁指定重要文化財）は江戸中期の永代名主の家。上流へ向かって流れる「逆さ川」に囲まれている。かつて荒川の支流が流れこんでいた。

春3月3日、上蒔田・椋神社では、白装束の氏子により、馬や竹の鍬を使って田を耕し苗を植える「御田植え祭り」が行われる。

田の広がる中蒔田。山の斜面には通り門を備えた大きな農家が並ぶ。屋号「田の頭」宅は古くからの豪農、当主は甲源一刀流を通り門の道場で子どもたちに伝えている。

円福寺は1373年創建。米どころ蒔田の檀家が支えてきた。南に延びる参道は小鹿野・秩父間の旧道に向かい、道を上ると小鹿坂峠にいたる。

上流が切断された蒔田川は侵食が進まず水が利用しやすい。蒔田の谷は米どころとなった。

三波川帯との境界にある聖神社には自然銅と朝廷から賜った銅製ムカデが保存されている。「和銅沢」「銅洗堀」の地名や露天掘り跡が残っている。

横瀬川と荒川の段丘崖に囲まれ中世の「諏訪城」跡がある。水不足の段丘面は桑畑となり「秩父銘仙」を生み出した。橋を渡った飯塚・招木には古墳群が存在する。

美の山から望む蒔田地区。広々とした田のあるところが中蒔田。左側に細長く横たわるのが尾田蒔丘陵北端。

尾田蒔丘陵（高位段丘）

およそ50万年前の盆地平坦面。川の運んだ礫層やローム層がある。音楽寺からは、羊山丘陵（中位段丘）と秩父市街地（低位段丘）が望める。

© 秩父まるごとジオパーク推進協議会